

職員による自己評価

A環境面

- ・建物が大きく部屋がたくさんあるため、出来ることが多い。
- ・バリアフリー、セキュリティーが優れている。

B児童への支援内容

- ・色々なタイプの子どもに対して、臨機応変に支援している。
- ・2年目となりプログラムもより活発になった。

C関係機関との連携

- ・問題とされる事案に対して、学校、児童相談所などケース会議を行った。
- ・短期入所の利用

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・半年に一度個別支援面談を行っている。
- ・2018年度は父母会を開催できなかった。

E非常対応

- ・緊急時の受け入れ体制は出来ている。
- ・

保護者による評価

A環境面

職員配置、スペース、バリアフリーなど環境面で満足いただける評価を頂けた。

B児童への支援内容

- ・活動プログラムがあるか分からないというお声もあったが、過半数以上が活動プログラムに満足していた。

C事業所からの情報発信

- ・連絡ノートでのやりとり、送迎時にお話をさせてもらっている。
- ・父母会が開催されなかった。

D非常対応

- ・避難訓練が実施されているのか聴いていない。

事業所内での分析

【共通点】

- ・バリアフリーに対応した建物など環境面で優れている。
- ・支援について満足していただいている。
- ・子どもの様子は連絡ノートや送迎時にお話をして共有している。
- ・父母会を開催していない。

【相違点】

- ・避難訓練を実施した旨を伝えていなかった。
- ・ホームページに評価をあげているのをお知らせしてなかった。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・スペースがあるため、状況により個別対応が可能。職員も臨機応変に配置が可能。
- ・緊急時の受け入れ体制ができています。
- ・非常時、短期入所での対応も可能。
- ・コミュニケーションにも力を入れているため、情報共有ができています。

事業所の改善点

- ・2018年度は父母会が開催できなかった。
- ・子どもの様子の情報共有はできていたが、避難訓練の実施の情報を提供していなかった。
- ・

事業所の改善への取り組み

- ・父母会を行い、そのときに避難訓練の報告、また契約時に防災マニュアルの資料ををお渡ししているが、ホームページの掲示板に書き込みができることなど、毎年伝える必要があるとも感じた。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・2年目となり、職員も1年目よりも安定してきたことが、よりご家族とコミュニケーションをとる時間が確保できたと思われる。子ども、スタッフお互いが慣れ始め、活動を外まで広げることができた。活動の幅が広がるということは、ヒヤリハットな状況も増えると思われるので、慣れることに慣れず注意を怠らず、子ども達にはのびのびと過ごせる環境を提供したい。

事業所名 _____ うれしの

担当者 _____ 福山 悟